

なな

8月号
vol. 222

「8月1日は水の日」
写真…石川河川公園（羽曳野市駒ヶ谷）

障害病/生の物語

しょうろうびょうしょう

at / from nishinari

西成で / から … ⇨ 13 ♡

特集

第6回 住み慣れた地域で暮らし続けるある認知症の女性の物語

障老病生の物語

しょうろうびょうしょう

at / from nishinari

西成で / から ... → 13 ♡

第6回

住み慣れた地域で暮らし続けるある認知症の女性の物語

「障老病生」とは、仏教の「生老病死」をもじって、「障害を持つこと」「老いること」「病気になること」「人と違った人生を生きること」を意味する造語です。

本人もその周りの人たちも、とまどいや不安など、いろんな気持ちを抱きながら、一人ひとりの物語を紡いでいます。その物語に寄り添いながら、「福祉って?」「幸せって?」「地域って?」など、みなさんと一緒に考えていければと思います。

はじめに

さて、障老病生の物語、第六回目の今回は、認知症の人の物語です。

全国の認知症の人は、2025年で65歳以上の高齢者の5人に1人(650万人)700万人といわれています。

西成区北西部で活動している私たち社会福祉法人ヒューマンライツ福祉協会では、現在、約200名の認知症の人の支援を試行錯誤しながら行っています。その中でも今回は、支援者とともに住み慣れた地域での生活を続けている女性の物語に寄り添うことで、考えたことについて書いていきたいと思います。

トコジラミ!!

「あれ? Aさんの服になんか虫ついてへん?」「!!」

「...やばっ! トコジラミやん!」

これは去年の秋、手首や首の虫刺されで激しいかゆみを訴えたAさんとクリニックを受診した際の先生とケアマネの会話です。この後すぐにAさんの住む長屋に行くと、

壁や天井、部屋の隅っこなどでトコジラミの抜け殻や吸血した赤い糞の2ミリ程度の汚れを発見。さあ、これから大変です。

トコジラミの駆除には、専門業者の力が必要でし、そのためには10万円以上のお金が必要になります。また、駆除する間に避難する場所も必要でし、それまでの生活を支える人手もいります。

トコジラミは全世界にいるようで、英語では bed bug。日本では江戸時代にオランダあたりから来たとされ、夜行性で生命力や繁殖力が強く、吸血されると激しいかゆみや高熱がでることもあります。中には、吸血されすぎて失血死されたケースや、耐久力が1000倍ともいわれるスーパートコジラミもいるようです。ですので、トコジラミが発生した家には訪問しないというホームヘルパーの事業所もあるほどです。

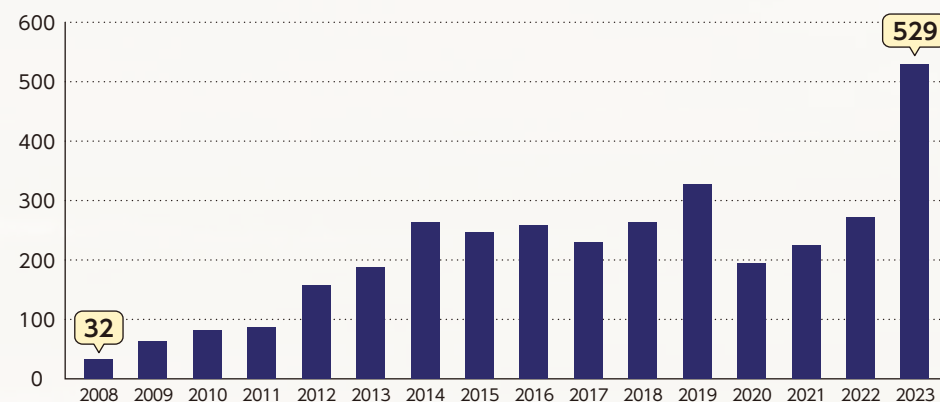
ちなみに、トコジラミは南京虫ともいわれますが、中国の南京とは特段の因果関係が確認されていないので、トコジラミと呼称されます。

Aさんの場合、まず10万円の駆除費用の

捻出が課題でした。Aさんは生活保護でするので貯金がありません。ですので、オール大阪の社会福祉法人が連携・協働して取り組む社会貢献事業である「大阪しあわせネット」に相談し、生活困窮者レスキュー事業として10万円の給付をもらい駆除費用にあてました。また、駆除中の一時避難として受け入れてくれるショートステイを探します。入所直前に衣服をすべて新品に着替えることを条件に利用することができました。また、ヘルパーさんは来てくれないので、駆除が終わるまでの生活支援はケアマネが中心となっていくことで、何とか元の家に戻ってくる事ができました。

気配りさんと一緒に...

現在92歳のAさんとかかわりは、10年前にさかのぼります。若いころに大阪で結婚、出産を経て60歳ごろ夫と死別。穏やかで社交的な性格で一人暮らしをされていたことが、時折帰路がわからなくなることがあるようで、地域包括支援センターにご近所の方から相談があったのがきっかけです。



大阪府内トコジラミ相談件数推移 大阪府公表資料「大阪府域におけるトコジラミの相談件数」を基に作成



オレンジリング (認知症サポーター研修修了者のしるし) 着用イメージ

症の人に対するネガティブなイメージから抜け出せないかもしれない。本人の立場になって、安心して外出を楽しむことを当たり前と考えて、何が必要か本人とともに考え続けることが認知症の人にとって暮らしやすい街。誰もが暮らしやすい街に近づきたいと思いませんか？

これも一理ありますが、このロジックは人種問題や部落問題などの啓発に当てはめるのは難しいです。なぜなら後天的にそれらの被差別の立場になることが難しいからです。逆に言えば、認知症にならなければ考えなくてよいともれます。つまり、計算や同調圧力だけでなく、認知症の人が住みやすい地域。自分自身が住みやすい地域ということへの共感やそれらを考える努力を地道に積み重ねていくことが必要ではないでしょうか？

あなたは どう思いますか？

おわりに

いかがでしたでしょうか？

私たちは、認知症の人が暮らしやすい地域づくりの取り組みや制度のはざまのニーズに対応するため、地域で参加を募り、2020年度より「ともいき基金」を組成し、西成地域共生社会づくり推進委員会での活用を進めています。そして、今年6月1日には、福岡で開催された日本認知症ケア学会にてそれらの実践報告をし、全国の実践



ヒューマンライツ福祉協会
 LINE 公式アカウント

※個人情報保護等の観点から、一部事実を改変して掲載しています。
 ※本記事のロゴや文字は、編集部において、ローライズの方や色覚障害の方にも読みやすいユニバーサルデザインにしています。

文責：社福ヒューマンライツ福祉協会
 法人本部・障害者支援部 部長 屋代直信

者との交流を図ってきました。そして、ともいき基金を活用した取り組みの一つとして、今年の11月には8回目となる西成オレンジまつりを開催いたします。ご興味のある方は当協会HPなどに告知をいたしますので、ぜひご参加いただければありがたいです。

それでは、今回の物語にお付き合いいただきありがとうございました。次回の障害者の物語にもお付き合いいただければありがたいです。

Aさんはアルツハイマー型認知症で、年相応に物忘れがあったり、道に迷ったりされますが、誰かの見守りがあり、ほぼほぼおひとり生活できています。また、きれいな一面もあり、近所のごみを拾っては、自宅に持ち帰り、Aさんなりのルールで分別してから捨てたりされています。もしかしたらこのことがトコジツミの発生原因かもしれないませんが、古い長屋ですので、定かではありません。

「帰り道がようわからんねん。一緒に帰ってや。」

「またかいな。しゃーないな。ほな行こか。」

これは、夜な夜な繁華街に出かけては帰り道がわからなくなったAさんと連れて帰ってくる若者たちとの会話です。

このように誰かにSOSを出してくれるので今のところ安心ですが、支援者たちも気が気ではありません。

できるだけ、昼間のデイサービスやホームヘルプサービスの利用してもらったり、ご近所や立ち寄りそうな店舗などに気配りをお願いしたりして見守りの輪を広げてい

「徘徊」ではなく、外出…散歩…道迷い…

認知症の人が道に迷うのは、場所や時間感覚がわかりにくくなる見当識障害が原因といわれます。そして、このように認知症の人などが道に迷っていることを指して「徘徊(はいかい)」といわれてきました。

「目的もなく、うろつくと歩きまわること」(大辞林)、「どこともなく歩きまわること」(広辞苑)。辞書に載る「徘徊」の一般的な説明です。



認知症サポーター養成講座の様子(2024年11月)

これに対して、認知症の本人が政策提言などに取り組み「日本認知症本人ワーキンググループ」が公表した「本人からの提案」で、「私たちは、自分なりの理由や目的があつて外に出かける」「外出を過剰に危険視して監視や制止をしないで」などと訴えています。

徘徊という言葉を使ってしまうと、認知

更生の道のりで見つけた新しい「表現」のカタチを
よりそいネットおおさが紹介します。

あなたの センスに あっぱれ!



第5回

アートに触れる、
人とつながる

4月から再スタートした「Power of
マヨプロジェクト」。今年度からの新た
な試みとして、アートワークショップが

開催されました。

アートの専門家による監修のも
と、ジャンルもさまざまな4種類
のワークショップでは、展示会
の発表を目指して、実際に展示
される作品づくりに挑戦。アー
ト制作の経験がなくても楽しめ
る内容となっており、絵の具や色鉛筆を
使うワークショップでは、参加者の誰も
が童心に帰ったかのような表情を浮かべ
ていました。

もちろん、ワークショップには当事者
(出所者)も参加。学生たちと同じ輪に
入り、共に作品づくりに取り組みました。
慣れない環境や初対面の人々に囲まれて、
緊張や戸惑い、恥じらいがみられる場面
もありましたが、一つのアート制作を共
有する中で自然と会話が生まれ、次第に
打ち解けていく様子を感じられました。

出所後、地域での生活を再開した彼
ら・彼女らに求められるのは、「更生」や
「自立」といった言葉です。しかしその
定義は曖昧で、自分ひとりで答えを見つ



けられるものではないかもしれませんが。
中には、生涯をかけてその意味と向き合
う人もいるでしょう。日々の暮らしのな
かで、さまざまな思いや葛藤を抱えてい
ることが想像されます。

そんな彼ら・彼女らにとって、年齢、性
別、障害、過去の背景にとらわれず、「普
通」である時間と空間は「特別」であり、
初めての感情と出会える非日常のひと
ときであったのではないのでしょうか。

ワークショップの紹介

①「回転寿司みたいに絵を描くプログラム」

回転寿司のレールのような形の画用紙
に自由に絵を描きました。隣の人から回っ
てきた絵に、さらに描き足していくこと
で最後は不思議な絵が完成しました。

②「ことばであそぶプログラム」

3人でそれぞれ自由な言葉を含ませ、
ユニークな合作俳句を作りました。言葉
が苦手なひとでも気軽に参加でき、へん
てこな世界観から笑いの絶えない時間
になりました。

③「凸凹がアートになるプログラム」

学校の中にある様々な凸凹を触ってこ
すって写し取ることで模様や文字が浮か
び上がりました。その上から色を置いた
り描いたりすることで、最後は1つの壮
大な作品ができ上がりました。

④「リシ袋とporifのシートをつくる」

カラフルなレジ袋を切って張って、圧
着して1枚のシートを作りました。出来
上がったお気に入りの模様を切り取って、
みんなで並べると一つの大きな作品がで
き上がりました。



一般社団法人よりそいネットおおさか

〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4-15
大阪府社会福祉会館2階
TEL/FAX: 06-6711-0130
HP: <https://www.yoriso-osaka.jp>

よりそいネットおおさかは、刑務所等の矯正
施設を退所した人たちの支
援や、支援者との関係づくりに
取り組み、ネットワーク型
の福祉構築を目指した活動
を行っています。



【住友宣夫】夏本番を迎える8月。蝉の声が響き、
暑さが一層増す中、夏休みや花火大会など季節の
楽しみが本格化してきましたね。



【笹川勝正】梅田の地下にある、壁一面の蛇口から
各種お酒が出てくる居酒屋に初来店。テンション
が上がって久しぶりにビール以外のものを色々
飲んだ結果、翌日が地獄でした。



【沖田一志】中学生からラジオ好きで、若い頃は
FM802、この十数年はFMCOCOLOをよく聞いて
いました。しかし、春の改編で雰囲気がガラッと変
わりなんとなく遠のいてしまった。ラジオに戻るか。



【磯拓哉】年々暑い夏で熱中症対策が必須ですね。
クーラーが効いた部屋と外の暑さにすっかりやら
れて夏バテ気味です(泣)。暑い夏を乗り切るた
めにたくさん食べることにします笑



- おかん はあ…。もうすぐお盆やな。
- ◆ 息子 今年もそんな時季か。なんか最近季節感が狂ってしまいそうや。
- 利用者さんにも一周忌を迎える人がいるわ。
- ◆ 仕事柄、そういうお客さん多いな。
- 去年の9月に亡くなった川西さん、よう喋る人やったなあ。ついこのあいだも娘の京子さんと話したんやけど、
- ◆ ふむ。
- 川西さんはどこでも誰とでも気さくに喋る人かと思ったら、そうじゃないやって。
- ◆ そうなんや。
- すごい人見知りで、自分の好きな人じゃないと喋れへん。だからヘルパーさんも入れへんかったらしいわ。
- ◆ じゃあ、身の回りのお世話はどうしたん？
- 京子さん、病院でヘルパーのような仕事してはったから、仕事を辞めて在宅介護することになってん。
- ◆ そら、一大決心やな。
- 職場には休職を勧められたけど、「日にちを切ってしまうと、母親の命も切ってしまうことになるから、それはいやや」って。
- ◆ へえ。
- で、介護はずっとがんばってたけど、やっぱり自分一人で最期を看取るのはすごい心細かったみたい。そんな時におってくれたのが、訪問看護の人。この人、「スーパー看護師」やねん。
- ◆ 「スーパー」って何が？
- まず24時間対応してくれること。現場に行けなくても何時でも電話したらすぐ受けてくれ

る。あと、利用者さんだけでなく、ご家族のメンタルケアもしてくれる。すごい心細いところを言葉で助けてくれるんやって。

◆ 言葉が大事なんやな？

● たとえば、川西さんの亡くなってすぐの姿を「綺麗から撮っておき」って勧めてくれたり。「よかった、撮っておいて」って。写真見せてくれたけど、ほんま、生きてるように寝てた。でも普通、そんなん言えへんよなあ。

◆ たしかに。ところで、自宅で看取るってどんなことが大変なの？

● たとえ経験豊富で看取りを決意してても、たいていはいざ危篤になるとパニックになってしまつて、つい救急車を呼んでまうねん。で、呼ぶともう帰ってこれないからね。

◆ そうか、自宅で看取るはずやったのにできなくなるんやね。

● 呼吸が苦しくなってるの見てたら、もう耐えられないって。

◆ じゃあ、京子さんが自宅で看取れたのはこの看護師さんがいてくれたから？

● そう。そういうのに応じてくれる訪問看護師と出会えないと、家族だけの看取りは難しいやろうなあ。

◆ それが現実なんやな。

● 看取りじゃないけど、退院して自宅に帰ってきて、もう意識もはっきりしてない頃に京子さんがわたしを呼んでくれて。

◆ へえ。

● 京子さんが「お母ちゃん、お母ちゃんの好きな田中さんやで」って声かけてくれて、わたしも川西さんの手を握って「川西さん、田中やでえ！」って言ったら、ニコツとして手を握り返してくれた。それがすごいなんか嬉しかったよな。

◆ それはよかった。

● 川西さんとよく会った場所で歩行器を押している人を見たら、ふと思い出すことがあって。それを京子さんに言ったら「私もやねん。なんか思い出すよね」って。なんか知らんけど…。



親子遠足は、保護者の方に自分の子どもが他の園児や先生たちとどう関わっているか、遊んでいるかを間近で見てもらえる機会です。ご自宅では見られない子どもの成長に驚き、微笑ましく感じておられる様子。子どもも保護者も先生もみんなたくさん遊んでたくさん笑ってとっても楽しい一日になりました！

Go Kids
International School



松之宮地活協が実施する「松之宮地域防災訓練」が元松之宮小学校内で開催された。稲嶺西成区長のあいさつの後、地震や台風の際の注意点を消防署から講義と防災クイズが行われた。その後は2班に分かれて体験コーナーがあり、「煙中体験」、「消火器訓練」や備蓄品の展示があったが、私は「地震車体験」が印象深い。

地震車は地震を体験できるもので、車の中の椅子に腰かけ、震度がどんなに上がり揺れが強くなる

なっていくもの。「あんたも乗ってみて声をかけていたいたので、乗車してみたが、震度7になると座ついても姿勢を保つだけで精一杯であり、立つのはほぼ不可能に感じた。これが実際に家で起きたらと思うと、上から落ちてくる物や倒れてくる家具にも気を配らないといけないので大変である。しかし、模擬体験であつても経験するとしなないでは大きな違いがあるので、みなさんも機会があれば乗ってみてほしい。

少しの経験と知識で命が助かることもあるので、こういった防災訓練は大切な取り組みであり、災害を「我がごと」と考える意識が重要だ。

大阪市の住民参加型地域組織「地域活動協議会」の活動に橋を架けよう「近ツ橋【ちかつぎょう】」

近ツ橋

松之宮 我がごと防災



【福井龍磨】「夏の河 赤き鉄鎖のはし渡る」。1937年に俳人の山口誓子が詠んだ、初夏の大阪・安治川の風景。この直前に、大陸では日中戦争が始まっていた。眩しい陽射しの中に、微かに銃声が聞こえる。



【西田吉志】最近、よくわからない番号からの電話が増えた気がする。以前は気にならない程度だったものが「またか」と思うほど。電話に出てもほとんど自動音声による詐欺か営業なので、着信拒否。



【谷口円】久しぶりに梅田のE-ma(イーマ)を訪れると、かつてのオシャレ感は消え、店舗のほとんどがクリニックに…。梅田の北側にテナントが移動していったようす。都市も弱肉強食。



【田岡秀朋】熱すぎる夏は、久宝寺緑地で夜テニスでもいかが。ナイスがスクールとナイターやってます。照明はタイマー制御で無人営業の日もある。ちゃんと点いているか!? 心配も増えたけど、ちょっと楽しみ。

葉っぱの吐き見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「小夏(ミニひまわり)の葉っぱ：続編」の巻

あたまについた蕾。大きくなった。
あたまについた蕾。重たくなった。
あたまについた蕾。夏バテした。
太陽をいっぱいあびて栄養補給をした。
雨にいっぱいたれて水分補給をした。
風をいっぱいすいこんで温度管理をした。
あたまについた蕾。黄色の花がさいた。
チビだけど花になった私。チビだけど夏が似合う私。

赤井まゆみ

ミニひまわりのこと

高さが1mを超えないひまわりの品種。プランターなどで育てられて人気。花言葉は「笑顔」「元気」「高貴」



い湯かげん

人権と福祉の巻き直し

この拙文を書いているのは参院選告示直後だが、参院選の結果は、多分自公の過半数割れで、国民民主党や参政党、れいわが躍進、つまり多党化状態つてところか。そうなる、ボクが思うのは、例えば、せつかくの夫婦別姓法案も振り出しに戻った、否、もっと後退したかもしれない。それで、人権や福祉の政策の「巻き直し」をしなればならないということだ。

心当たりある人もいと思うけど、我が子が成人する頃、だいたい人権や福祉に「反抗期」になるものだ。曰く、「なんで外国人にまで生活保護なん?」「保険あるから年寄り病院行き過ぎるんちゃうん?」「インチキで福祉受け

てる人いるって聞くよ」「差別はあかんけど、同和事業は逆差別になるんちゃうん?」「等々。これは家族内でのことだが、15年前の維新の会の若い議員にもそんな反抗期を感じた。幸い、トップの橋下徹さんがちゃんと戒めておられた。その論法が、ボクらの説教じみた話と違って、実にわかりやすいと感心させられたものだった。

でも、最近、維新の国会議員の中に、またまた反抗期を思わせる発言が目についてきた。生活保護法は外国人への適用を合法としていないから、法を遵守するか、法を変えるかした方が良く、と。正論に聞こえる。でも多分勉強したばかりの半知半解。それこそ対案

のない言いつ放しは、排外主義に誤解されてしまう、そういう国会質問だった。

反抗期のような政党は、維新が草分けなんだが、この参院選で、そのお株を奪うように、排外主義を煽って悦に入る政党と候補者が急増して、相当の議席を得た。ボクが言う反抗期と排外主義とは違う。そもそも、人権も福祉も急ごしらえではなく、歴史を刻んで深められてきた。また、完璧でもなく進行形だから、若い人が疑問を持ちたり反発したりする。それを子どもたちの反抗期と頭越しの親に擬えた。そこから歴史も学んで、飛躍してくれたら、それが何よりなことだ。どうも、新しい国会議員には、よく言えば反抗期、悪く言えば排外主義で人権や福祉を見ている割合が増えたと思う。

そこで大切なことは、徒に排外主義者と非難することではない。どうも、ボク達世代のリベラルを自称している人ほど、辛辣すぎる。仮にも民意を得て議員になられ

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



(寺本良弘)

今、この原稿を書いているのは参議院選挙のちょうど中間点にあたる7月10日だ。皆さんがこれを読むころには選挙も終わり、どんな結果になっているのか、日本の政治がどのように動くのか、不安でたまらない。

与党が過半数を割ることがあれば、国会運営に大きな影響があることは間違いのないところで、野党も「参政党」や「れいわ新選組」など小さな政党が多く、政策において、まとまることは出来るのだろうか。

これほどに日本社会が多くの問題を抱えているときに、選挙目的で目先の問題に終始しており、どの政党にも信頼がかけない。政治がますます混迷を深めることは何としても避けてほしい。

たのだから、敬意を払いつつ、人権と福祉のサクセスストーリーをしつかりと伝えることだと思っ。とくに野党第2位の役割は大きいし、被差別の当事者団体などのロビー活動も重要だと思っ。打ち明けた話、我が子に人権や福祉を引き継ぐのは難しい。ある種興奮されている国会議員に、説教じみたロビー活動をするのも難しい。でも、正攻法で、人権と福祉、つまり我が国の民主主義のサクセスストーリーを伝えるために英知を集める時だと思っ。案外と「政権を担える力」とはそういうことで、野党共闘は急がば(人権と福祉に)回れだと思っ。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[若松司] 久しぶりに映画を観に行ったら、観客が私と妻の二人だけ。いや、じつはもう一人いたのだが、途中退席。そんなことある? 贅沢な時間ともいえるが、物語自体は推して知るべしといったかんじ。こんな日もある。



[山村裕太] ChatGPTをよく使うのですが、先日雑な言い方で依頼すると「できません」と回答が。「君は最高!」とつけて同様の内容を依頼したら、精密な回答がありました。AIにも気を遣う時代の到来です。

地域の縁を心でつなぐ

松崎寺い 心の時間

「カレンダーでは七月十五日と八月十五日の両方がお盆となってるけど、どちらが本当ですか？」と尋ねられましたので、「お盆の日は旧暦では七月十五日、新暦では一カ月遅れの八月十五日です」と答えました。

古来より道教老子が教祖）では旧暦の七月十五日が中元節の祭日でしたが、この中元節と仏教と日本独自の祖霊信仰が習合した行事が、日本のお盆で、六〇六（推古天皇十四）年七月十五日に初めて行われました。ちなみにデパートから届く「お中元」は、江戸時代、世話になった人へ「中元の日」に物を贈ったことから始まったと言われています。

さて先日「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか」と記されたポール・ゴーギャン画集を見る機会があり、人間の根源的な「いのちへの問い」が描かれた絵画に感銘を受けました。

お盆は「亡き人を偲ぶ」行事ですが、それと共に「我々はどこへ行くのか」と問い、限りある人生をより大切に充実して生きる道を探すヒントにしたいものです。

松向寺 通法

写真は人生の一部が映ったもの。

ここは思い出や自慢の1枚を少しご紹介するコーナーです。



ウツリ の1枚

📷『ランタンの炎』

我が家のガソリンランタンです。キャンプを始めたビギナーの頃は乾電池式で、今より性能も悪かったので夜になると真暗キャンプでした。その後、ガス、さらにガソリンとランタンが増えていきました。最近は充電のLEDを使ってる人が多そうですが、ガソリンは炎の色、明かりの揺れ具合がたまらないんです。（編集スタッフ 沖田一志）

smile
ゆーとあい
にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆーとあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび 8月号 (vol.222)
発行日: 2025年 8月 1日 (創刊日: 2007年 1月 1日)
発行: 株式会社ナイス
住所: 大阪市西成区長橋 3-6-33
電話: 06-6563-1150
E-mail: info@nice.ne.jp
url: https://www.nice.ne.jp/

編集長: 西田吉志
編集: 磯拓哉、沖田一志、笹川勝正、住友宣夫、
田岡秀朋、福井龍磨、山村裕太、若松司（あ
いうえお順）
イラスト: hidarimaki、西井亜花梨
デザイン: 谷口円

(株)ナイス
ホームページ

